

## 大学名：福岡教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	加盟を希望する学校にたいして、ユネスコスクールの趣旨を説明し、チャレンジ期間終了にあたり提出する報告書の内容を確認してもらい、求められる活動ができるかどうか、要件を満たせるかどうかを確認してもらい、チャレンジ期間終了後スムーズに申請へと進むことができるように早期より情報提供などを行った。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	チャレンジ期間中に取組の報告があった学校に対しては、適時適切な指導助言を行った。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ユネスコスクールを抱える教育員会の研修事業では、これまでの取組の総括を行ってもらい、成果と課題を整理して、さらなる発展的取組を提案し、質の向上に貢献した。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	本学のESDスタッフが参画し、ユネスコスクール地方ブロック大会を開催し、JICAと本学教員がESDに関する知見の提供を行った。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	ユネスコスクール地方ブロック大会を開催し、九州・沖縄地区のユネスコスクールに参加してもらい、取組の紹介を活動の共有など研修会を実施した。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	本学が包括連携協定を締結しているJICA九州との取組にあたって、ユネスコスクール支援大学としての役割を理解していただき、ユネスコスクールの存在や意義について説明し、学校への支援に際して協力を依頼した。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	ユネスコスクールにおける国際理解学習の展開にあたりJICA九州の資源が活用できるように調整した。また、ユネスコスクール地方ブロック大会では九州地方ESD活動支援センター企画も同時開催し、ユネスコスクールとの関係強化に努めた。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員	ユネスコスクール地方ブロック大会では、地元宗像市の教育長ほか教育委員会関係者にも参加し

	会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	てもらい、また、域内ユネスコスクール支援大学の琉球大学、およびオブザーバー参加を検討している熊本県立大学による指導助言も含めた。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ユネスコスクール地方ブロック大会では、九州・沖縄地方以外からの参加者を得ることができ、多様なステークホルダーにユネスコスクールの活動を知らせることができた。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	学部における授業科目「持続可能な開発のための教育」では、ESD の推進主体となっているユネスコスクール活動について紹介している。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	